

総合人間科学 英 語

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
准教授	1 人
講師（うち病院籍）	0 人（0 人）
助教（うち病院籍）	0 人（0 人）
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人（外国人教師）
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合計	3 人

2 教員の異動状況

遠藤 幸英（教授）（H14.5.1～現職）

中安 美奈子（准教授）（H19.8.1～現職）

O'Dowd, Gregory（外国人教師）（H14.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編（0 編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. O'Dowd G: The Evolution of Problem-based Learning in Foreign Medical Universities. Reports of Liberal Arts Hamamatsu University School of Medicine 27, 23-33, 2013.

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 24 年度
(1) 文部科学省科学研究費	2 件 (260 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

中安美奈子（研究代表者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 (C) 「中英語における時空間体系」（290万円（平成24年度100万円））（新規）

O'Dowd G（研究代表者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 (C) 「日本の医科大学における問題解決学習の発達」（390万円（平成24年度160万円））（新規）

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件
(6) 一般演題発表数	4 件	1 件

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

1. Endo Y: Corporeality and Art Interaction in the Japanese Oral Tradition of Storytelling. 7th International Conference in Arts in Society, Liverpool, UK, July 2012.
2. Endo Y: A Semiotic Morphology, Anime Body Disproportion and Storytelling. 37th Annual

Meeting of the Semiotic Society of America, Toronto, Canada, November 2012.

3. Nakayasu M: *Shrighte Emelye, and Howleth Palamon: Tense Alternation in Chaucer*. 17th International Conference on English Historical Linguistics (ICEHL-17), University of Zurich, Zurich, Switzerland, August 2012.
4. Nakayasu M: *Wilt Thou Be Lord of All the World? Modals and Persuasion in Shakespeare*. 11th Medieval English Studies Symposium (MESS 11), Adam Mickiewicz University, Poznań, Poland, November 2012.

(2) 国内学会の開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

Nakayasu M: *Modals and Persuasion in Shakespeare*. 第7回浜松医科学シンポジウム, 浜松医科大学, March 2013.

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

中安美奈子: *Diachronic Corpus Pragmatics* (John Benjamins Publishing Company), the Netherlands. 1回.

中安美奈子: *Studia Anglica Posnaniensia*, Poland. 1回.

9 共同研究の実施状況

	平成24年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成24年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 中英語における時空間体系 (中安美奈子)

本研究の目的は、中英語における時空間体系を歴史語用論の視点から体系的に分析することである。時空間体系には語用論的なファクターが密接に関わっているにもかかわらず、歴史的なデ

一タにおいては、語用論的な分析はいまだ不十分であると言わざるをえない。時制や人称代名詞といった時空間に関する文法範疇や形式に着目し、言語行為等のミクロなレベルにとどまらず、談話等のマクロなレベルに踏み込んだ分析を行い、こういったファクターが相互にどのように関連しているのか、また、談話においてどのように展開するのかについて検討している。